

「屋根のない博物館」に見立て、住民主体の活動によってその地域の自然や文化、生活様式といった資源を保存し、展示・活用する考え方だ。地元住民が自然や文化の価値を知り、それを自ら観光客に伝えることができれば、観光客には魅力的なツアーが生まれ、住民は放牧や農業に代わる生活の糧を

得ている。エコミュージアムとは、地域を「屋根のない博物館」に見立て、住民主体の活動によってその地域の自然や文化、生活様式といった資源を保存し、展示・活用する考え方だ。地元住民が自然や文化の価値を知り、それを自ら観光客に伝えることができれば、観光客には魅力的なツアーが生まれ、住民は放牧や農業に代わる生活の糧を

得ている。エコミュージアムとは、地域を「屋根のない博物館」に見立て、住民主体の活動によってその地域の自然や文化、生活様式といった資源を保存し、展示・活用する考え方だ。地元住民が自然や文化の価値を知り、それを自ら観光客に伝えることができれば、観光客には魅力的なツアーが生まれ、住民は放牧や農業に代わる生活の糧を

得ている。エコミュージアムとは、地域を「屋根のない博物館」に見立て、住民主体の活動によってその地域の自然や文化、生活様式といった資源を保存し、展示・活用する考え方だ。地元住民が自然や文化の価値を知り、それを自ら観光客に伝えることができれば、観光客には魅力的なツアーが生まれ、住民は放牧や農業に代わる生活の糧を

得ている。エコミュージアムとは、地域を「屋根のない博物館」に見立て、住民主体の活動によってその地域の自然や文化、生活様式といった資源を保存し、展示・活用する考え方だ。地元住民が自然や文化の価値を知り、それを自ら観光客に伝えることができれば、観光客には魅力的なツアーが生まれ、住民は放牧や農業に代わる生活の糧を

得ている。エコミュージアムとは、地域を「屋根のない博物館」に見立て、住民主体の活動によってその地域の自然や文化、生活様式といった資源を保存し、展示・活用する考え方だ。地元住民が自然や文化の価値を知り、それを自ら観光客に伝えることができれば、観光客には魅力的なツアーが生まれ、住民は放牧や農業に代わる生活の糧を

得ている。エコミュージアムとは、地域を「屋根のない博物館」に見立て、住民主体の活動によってその地域の自然や文化、生活様式といった資源を保存し、展示・活用する考え方だ。地元住民が自然や文化の価値を知り、それを自ら観光客に伝えることができれば、観光客には魅力的なツアーが生まれ、住民は放牧や農業に代わる生活の糧を

得ている。エコミュージアムとは、地域を「屋根のない博物館」に見立て、住民主体の活動によってその地域の自然や文化、生活様式といった資源を保存し、展示・活用する考え方だ。地元住民が自然や文化の価値を知り、それを自ら観光客に伝えることができれば、観光客には魅力的なツアーが生まれ、住民は放牧や農業に代わる生活の糧を

得ている。エコミュージアムとは、地域を「屋根のない博物館」に見立て、住民主体の活動によってその地域の自然や文化、生活様式といった資源を保存し、展示・活用する考え方だ。地元住民が自然や文化の価値を知り、それを自ら観光客に伝えることができれば、観光客には魅力的なツアーが生まれ、住民は放牧や農業に代わる生活の糧を

得ている。エコミュージアムとは、地域を「屋根のない博物館」に見立て、住民主体の活動によってその地域の自然や文化、生活様式といった資源を保存し、展示・活用する考え方だ。地元住民が自然や文化の価値を知り、それを自ら観光客に伝えることができれば、観光客には魅力的なツアーが生まれ、住民は放牧や農業に代わる生活の糧を

得ている。エコミュージアムとは、地域を「屋根のない博物館」に見立て、住民主体の活動によってその地域の自然や文化、生活様式といった資源を保存し、展示・活用する考え方だ。地元住民が自然や文化の価値を知り、それを自ら観光客に伝えることができれば、観光客には魅力的なツアーが生まれ、住民は放牧や農業に代わる生活の糧を

得ている。エコミュージアムとは、地域を「屋根のない博物館」に見立て、住民主体の活動によってその地域の自然や文化、生活様式といった資源を保存し、展示・活用する考え方だ。地元住民が自然や文化の価値を知り、それを自ら観光客に伝えることができれば、観光客には魅力的なツアーが生まれ、住民は放牧や農業に代わる生活の糧を



国立公園を訪れる観光客のデータがプロモーションに生かされている

ビレッジ・ツアーのパンフレット(左)とエチオピア航空の機内誌でのプロジェクト特集記事(右)。ツアーへの注目が高まり、商品に組み込む旅行会社も出てきている



現地のコーヒーを、現地の住居で楽しめる体験型のツアーが魅力だ



富士山より高い場所で
畑を耕す人々

西暦100年にソロモン王とシバの女王の末裔が王国を打ち立てたというエチオピア。アフリカ第

2位の人口を持つこの国では、80を超える民族が共存し、多彩な文化を今に伝えている。同国の北部には、アフリカ全体を南北に分断する大地溝帯の山々が連なり、壮大な景観と多彩な動植物が魅力

だ。その中で、同国最高峰のラス・デシエン山を頂くのが、シミアン国立公園だ。同公園内には、富士山を超える標高4000メートル級の山々がそびえる。人の手の及ばない世界



シミアンの雄大な景色を足元に眺める



エチオピアの主食「インジェラ」を焼くシミアンの女性

from Ethiopia

エチオピア

悠久の山々に刻まれた 生活を楽しむ

1978年、世界最初の世界遺産の一つとして登録された、エチオピアのシミアン国立公園。しかし、公園内や周辺に暮らす人々の放牧などが原因で豊かな自然環境が大きく破壊されたことから、96年、公園は「危機遺産リスト」に登録されてしまった。放牧に代わる新たな産業を生み出すため、地域の人々の暮らしを観光資源に変える——そんな挑戦が始まっている。